して之を統率するに過ぎざるなり。

長將軍は上諭を受けし後、伊犂に赴任の途、烏魯木齊に滯留し在りて未だ一事を成さず、其意の存する所、那邊に在るかを知らず。又現任巡撫聯魁氏は、小心翼々の循吏なるが故に、老來覇氣尚ほ銷磨せざる長將軍とは、往々意見の衝突するもの有りと云ふ。獨り現任布政使王樹枏は博學多才にして、得易からざるの好官人なるに因り、其の意見は概ね將軍、巡撫之を容れ、威權自ら大なり。要するに將軍、巡撫の協同一致を缺くは、制度の不備に歸せざるべからず、惟ふに新疆省は、支那西邊の要衝なれば、文武一途に出でざるべからず、故に將軍、巡撫並立の現制度を改め、一の總督を置きて閫外の任を授け、以て新疆開發、邊防の完備を期するを得策とすべし。

伊犂將軍の下僚に參贊大臣一名、塔爾巴哈臺に駐劄し、伊犂には副都統一名を置けり、世に副將軍の稱あり。之に次で領隊大臣五名を各種族の長官たらしむ。其の伊犂に在るものは、錫伯領隊、索倫領隊、額魯特領隊、察哈爾領隊大臣の四名にして塔爾巴哈臺に在るものは、索倫領隊大臣の一名とす。其他參領、協領、佐領、防禦、驍騎校等を各、要地に配置して之を分擔せしむ。